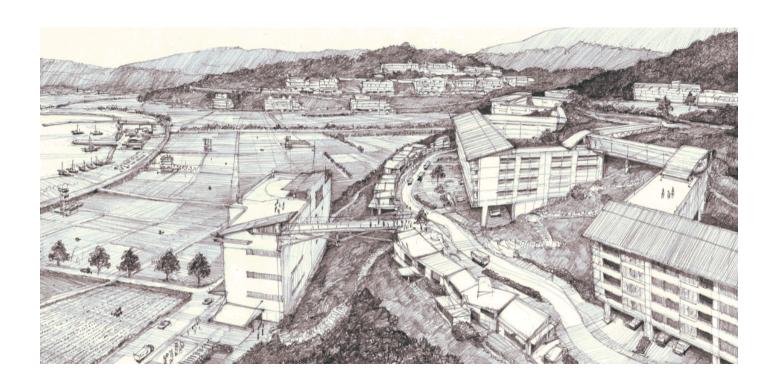
# 海岸地区再生ビジョンの方向性

(地域の潜在治癒力で持続する"包括的な再生計画"策定に向けて)

2011年4月21日

岩崎敬: (株) 岩崎敬環境計画事務所、東京大学先端科学技術研究センター kiws@cellcity.jp

糟谷英一郎:(株)岩崎敬環境計画事務所 kasuya@cellcity.jp



# 1. 再生ビジョンの役割:明確な目標を共有し、多様な関わりを作り出すために

- ・再生ビジョンとは、被災地域が一刻も早く再生活動を本格的に起動するための、再生目標のイメージとプロセスの概要である
- ・ビジョンを共有することで、ゼロからの再生、あらゆる行政組織、民間組織、住民、関連組織が、効果的 に役割を担うことが可能となる
- ・ビジョンの基で、復旧・復興が一体化した「地域再生」プログラムを次々と起こすことが可能となる
- ・ビジョンがあることで、地域住民が考え、プログラム自体が持続・進化し、日々より安全にかつ活力を生み続けることが可能となる
- ・このビジョンを構築することで、地域の潜在的治癒力を活かし、日々安全になっていく持続的な環境作り が実現する

# 2. 理念: 地元に根ざし、グローバルな視野と、包括的な視点で、再生を考える

#### 2-1 地域資源を国際的視野のもとでフルに活用する

・自然資源:海、海流、湾、漁場、水、緑の自然資源は、今も変わらない

・人的資源:地域に根ざした人の営み、自然との関わりを知る人

・技術資源:歴史の蓄積から生まれた 技、道具、技術

# 2-2 包括的なプログラム

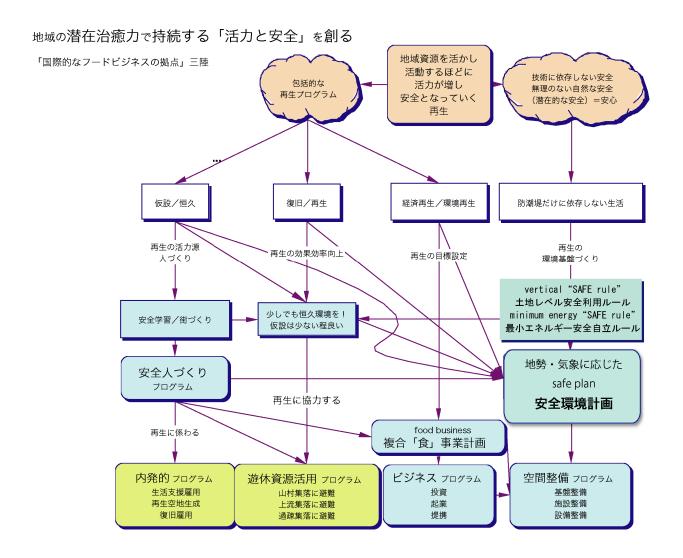
- ・仮設と恒久の連続性
- ・復旧と再生の一体性
- ・経済再生と環境再生の相互連携性
- ・効果的かつ途切れのない展開を進める

## 2-3 技術に依存しない安全:文化としての安全プログラムの構築

- ・自然に沿った無理のない安全
- ・潜在的な安全がつくりだす安心な生活
- ・安全を文化として位置づけ、継続的に活力を作り出す源とする

#### 2-4 経済再生の意味

- ・経済の再生が展開することで、結果として生活の質が向上していく
- ・経済の再生、生活の質の向上を実現するために基盤再生・設備投資を順次整えていく
- ・再生プロジェクトを一つの「投資プロジェクト」として認識し、内外からの投資、支援を呼び込んでいく



#### 3.基幹的な再生計画と再生プログラム

このビジョンは、具体的な方針となる「計画」と実現する「プログラム」により構成される。

理念に基づき、地域の実情、生活者の意識などを反映させ 計画 を策定し、その計画を実現するための 具体的な プログラム により再生はスタートする。ドラマで言うと「計画」は原作であり、「プログラム」は配役の決まったシナリオに相当する。

#### 3-1 再生への留意点

理想的には、速やかに恒久的な生活を送りたい、仮設的な処置は極力少なく、物心、時間の無駄を避けたい。一気に膨大な数の仮設住宅を手配することの困難さ、利用後の処分の難しさなどは、、 阪神大震災の時にも経験した。また、地域の全ての人々が罹災したこの災害では、罹災者が今何を担えるのか、再生プログラムにどのように関われるのかを考え、そこで生まれる関わりのプログラムが、未来へ向けた持続的な再生に欠かせない一歩となることを基本的な課題として忘れてはならない。

# 3-2 FOOD BUSINESS 計画:複合「食」事業

三陸海岸の歴史と資源、豊かな水を活かして複合的「食」を事業として展開する。漁猟・収穫、生産、養

殖・飼育、加工、開発、マーケティング、流通、人材育成、研究、飲食サービスなど、水産と農業を組み合わせ、あらゆる場面が関わり合う産業地域とする。

・ビジネスプログラム:これを推進 するには、横断的な活動を関連づけ 一つのプロジェクトとして展開する 必要がある。組織、資本、個人の関 わりを作り出し、まとまった投資事 業として推進する。

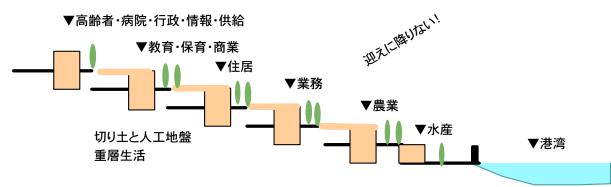


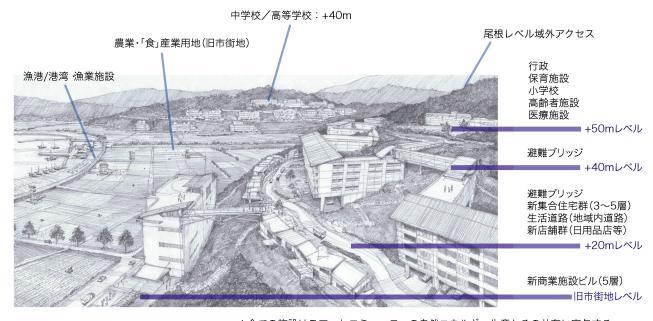
### 3-3 地勢に応じた安全環境計画

防潮堤だけに頼る安全の限界を知ることとなった。技術により自然と対峙するのではなく、地勢を認知し自然のエネルギーを避ける文化により、地域環境の安全を計画する。地域での活動体制と、拠点の位置=レベルのルールを設定し、土地利用を図る。介護を要するヒトは避難が必要がない高い場所にする、といった優先を設定していく。避難時に家族や高齢者を迎えに降りていく必要の無いシステムを構築し、潜在的に安心な街を作る。斜面に立つ施設そのものが避難経路となるように考え、建築物と地勢が一体化した建築ルールも検討する。

・空間整備プログラム:脱塩及び土壌改良、基盤 整備、施設整備、設備整備など







\*全ての施設はスマートコミュニティの自然エネルギー生産とその共有に寄与する \*災害時に最低限の電力自立を可能とすることを、再生の基本仕様とする \*日進月歩の技術進化により、より安全なコミュニティと進化する

## 3-4 自然エネルギー自立プログラム

災害時に最低限のエネルギーを確保するために、地域で得られる自然エネルギーを活用し自立できるようにする。日進月歩の**"エネルギー生産、蓄積、共有(シェア)技術"**により、地域の自立安全性は時間とともに向上する構造を創り出す。

#### 3-5 有休資源活用プログラム

再生に際しては空地が必要であり、個人の権限も制限しなくてはならない。同様に仮設住宅の配置も、将来 を見越した配置を優先することで安全な未来を達成することができる。平地の少ない三陸では、仮の生活に ついては極力山間部集落の空き家を活用し街づくりの余裕をもつことが重要なプログラムとなる。このプロ グラムは、里山里海コンセプトに基づく漁村山村交流にもつながる。

・山間集落、上流集落、過疎集落、限界集落活用プログラム

## 3-6 安全人づくりプログラム:防災・安全学習計画

- ・地域の人々が安全かつ安心な未来を考えることで、自律的な街づくりの精神的な骨格を構築し「内発的な 再生」の基盤とする。これは、未来への意欲を高め、子孫の安全を考え、これからの再生を考える機会とな るので、復旧から再生への移行段階から導入すべきプログラムである。
- ・多くの被災者が未来へ向けた「地域の安全環境の実現に関わり担う」という姿勢と、現実の場面での専門的かつ先験的な技術や知識とのコラボレーションを組み込んだ安全学習システムを構築し地域に浸透させていくことが、再生の精神的根幹となる。
- ・再生に要する様々な活動、生活支援、再生空地生成、脱塩土壌改良、などで積極的に活動する場面を用意 することで、内発的な再生を実現する